

平成24年度がん検診受診率進捗状況

	施策の方向	展開方向	目 標
保健計画・健康ひがしむらやま21	がん予防対策	①がん検診受診促進のための普及啓発 ②精度管理の推進 ③健康教育の充実 ④受けやすい環境づくり	①生活習慣の改善 ②がん検診受診率の増加 ③がん検診の利便性の向上 (受診方法・時期等)

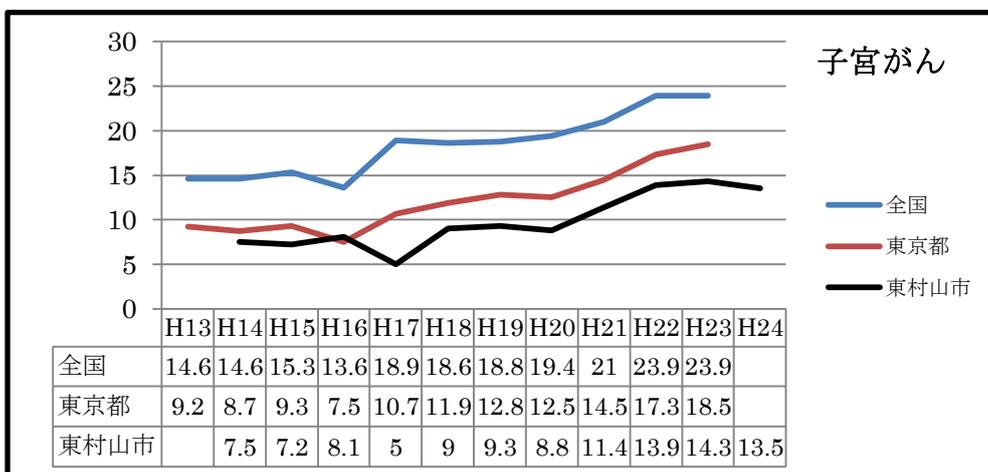
平成24年度の取組み

受診促進のための普及啓発	<p>■ 特定年齢者へ個別に※受診・再受診勧奨通知及び無料クーポン事業を実施 (下線 受診と再勧奨通知年齢)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん : 40・45・50・55・60歳 (※開始H21年度) ・子宮がん : 20・25・30・35・40歳 (※開始H21年度) ・大腸がん : 49歳 (勧奨・再勧奨通知のみ) (※開始H23年度) <p>■ 特定健診通知にがん検診関連情報を記載し受診啓発を実施</p> <p>■ 乳がんキャンペーン (健康のつどい) の実施</p>
精度管理の推進	<p>■ 精密検査対象者へ早期受診勧奨・追跡等、精検後の結果把握、フォロー継続 (24年度数値は追跡中)</p>
健康教育の充実	大腸がん講演会
受診しやすい環境づくり	<p>■ がん検診 (子宮がん・乳がん) の実施時期を5か月から7か月に受診期間を拡大</p>

<精度管理の数値目標>

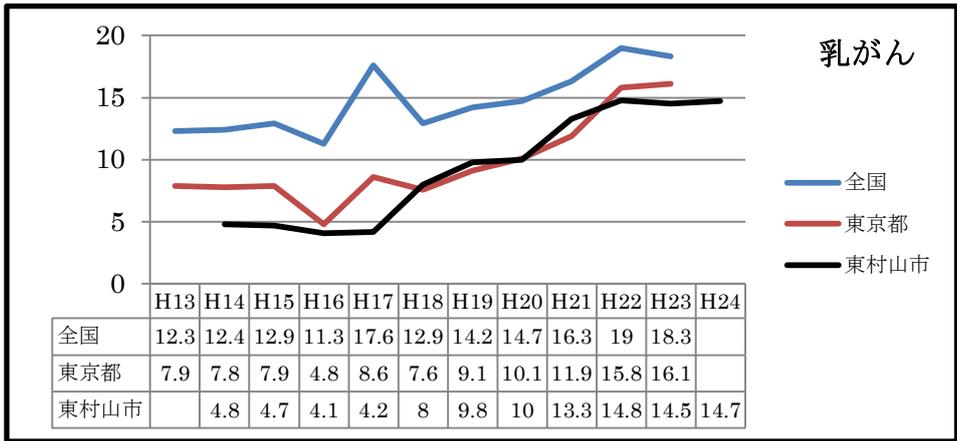
厚労省 がん検診事業評価に関する委員会
精度管理指標の数値目標
○受診率 ○要精検率 ○精検受診率

◆受診率

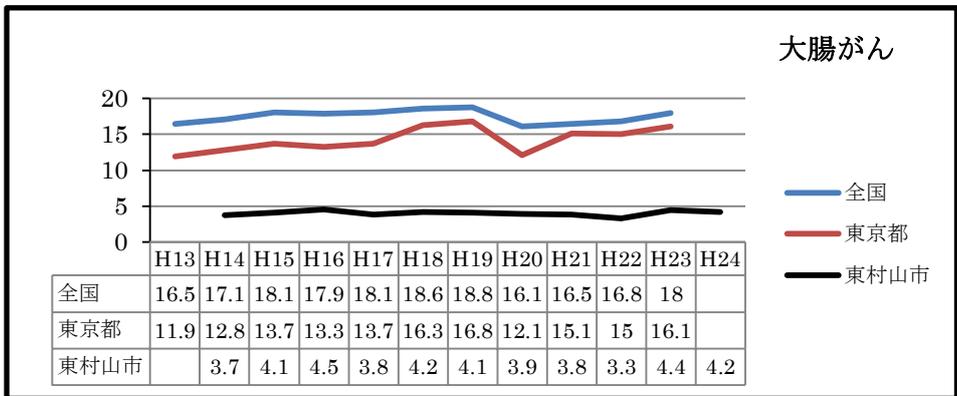


<子宮がん受診率>

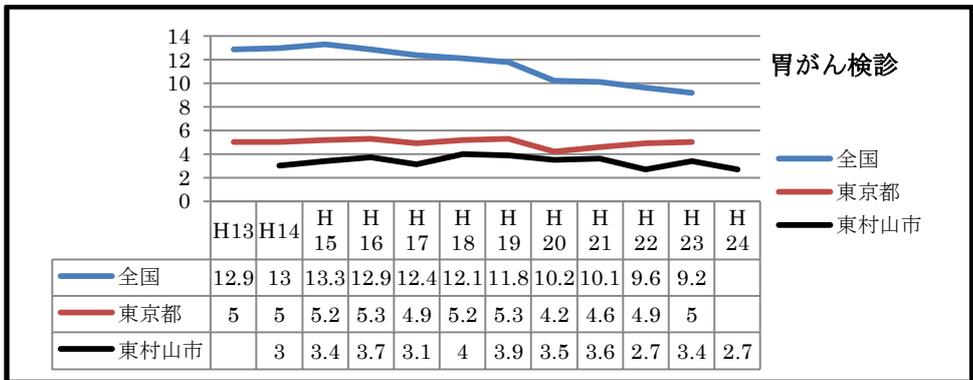
全国平均より低い結果であるが、受診勧奨・再勧奨・無料クーポン事業の結果、若干の受診率向上がみられ、受診勧奨等の効果が反映されつつある。



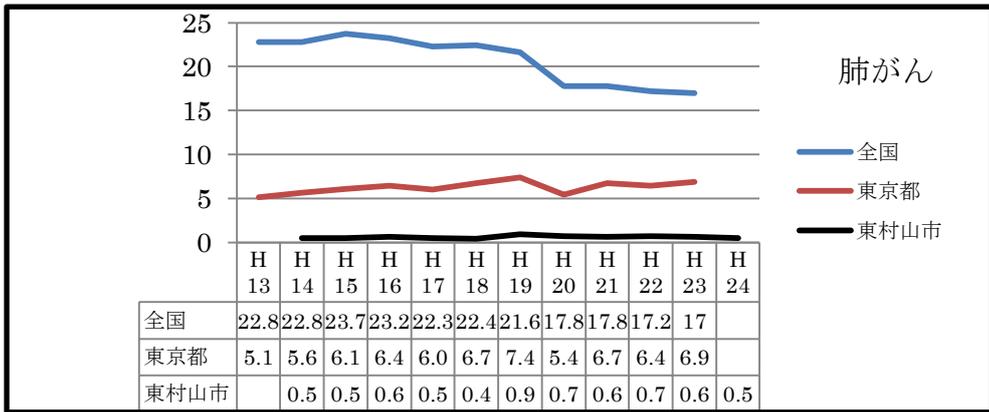
<乳がん受診率>
 全国・都平均より低い結果であるが、受診勧奨・再勧奨・無料クーポン事業の結果、若干の受診率増加がみられ、受診勧奨等の効果が反映されつつある。



<大腸がん受診率>
 全国・都平均より低い結果である。受診勧奨・再勧奨の結果、若干の受診率増加がみられたが、効果は十分に反映されていない。啓発・実施時期等について検証が必要である。

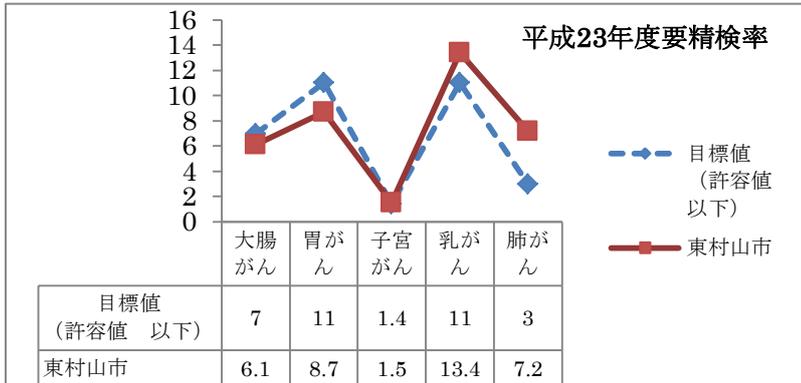


<胃がん受診率>
 全国・都平均より低い結果である。効果は十分に反映されていない。啓発・実施時期等について検証が必要である。



<肺がん受診率>
 全国・都平均より低い結果である。受診勧奨等の啓発の結果、効果は十分に反映されていない。啓発・実施機関・実施時期等全般について検証が必要であり、受診率を上げることが優先課題である。

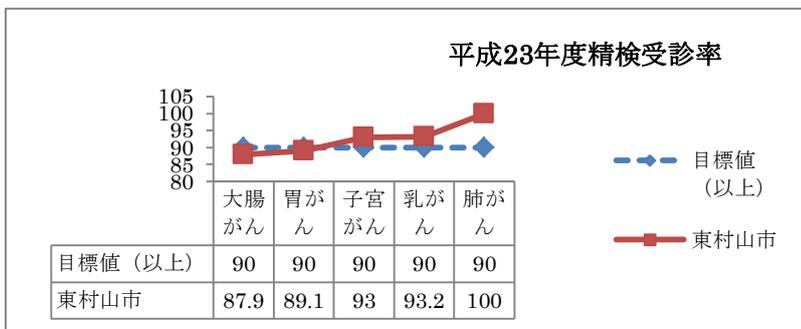
◆要精検率（がん検診受診者のうち、精密検査が必要な者の割合）



<要精検率（許容値）>

○精度管理に基づく項目はすべて満たしている
 ○大腸がん・胃がん・子宮がんは許容値の範囲である。乳がん・肺がんは実施機関の精度管理の向上が必要である。

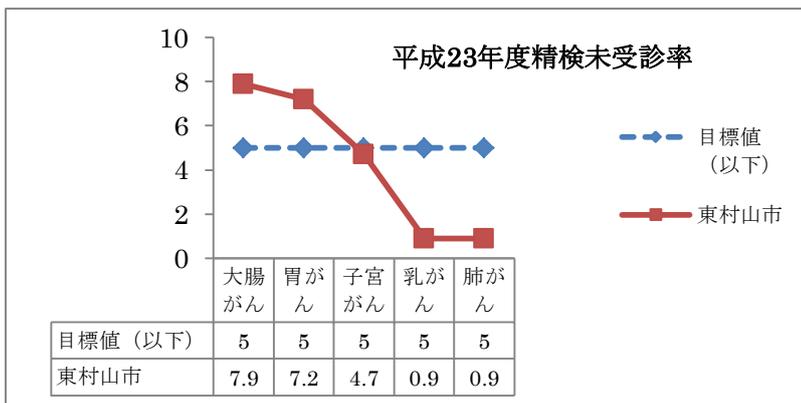
◆精検受診率（精密検査を受けた者の割合）



<精検受診率 目標値 90%以上>

○肺がん・乳がん・子宮がんは目標に達している。
 ○大腸がん・胃がんの精検受診率は許容値（70%以上）の範囲である。

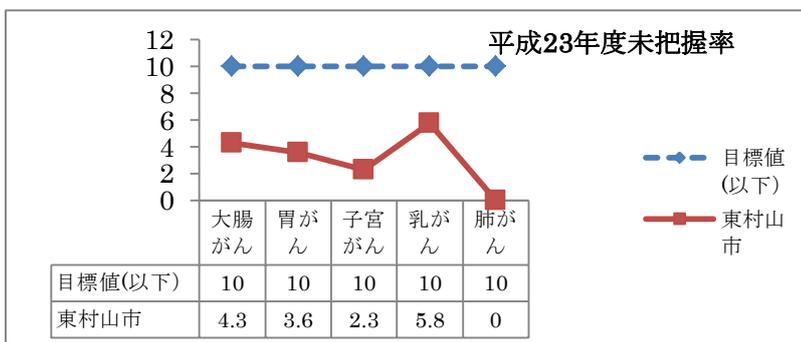
◆精検未受診率（精密検査を受けなかった者の割合）



<精検未受診率 目標値 5%以下 >

○肺がん・乳がん・子宮がんは目標に達している。
 ○大腸・胃がんは許容値（20%以下）の範囲である。

◆精検未把握率（精密検査を受けたかどうか追跡できなかった者の割合）



<精検未把握率 目標値 10%以下 >

○5がんについて精密検査後の結果把握の目標を達している。

<参考>

